

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401033

研究課題名（和文） 古代イスラエルにおける一神教の成立過程に関する考古学的研究

研究課題名（英文） An Archaeological Study on the Formation of Monotheism in Ancient Israel

研究代表者

杉本 智俊（SUGIMOTO TOMOTOSHI）

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：80338243

研究成果の概要（和文）：

エン・ゲヴ遺跡（イスラエル）の発掘調査によって印章などの宗教遺物を検出し、古代イスラエルおよびそれに隣接する諸国家の成立に新ヒッタイト文化の影響が見られることを指摘した。また、この印章や「生命の木」の図像、ユダ式柱状土偶などの宗教遺物の分析を行い、それらの示す宗教的画期から、古代イスラエル王国にカナンの多神教が単純に継続されていたわけでないことを明らかにした。さらに、2011年8月には、国際カンファレンスを主催し、古代西アジアにおける多神教の代表的女神アスタルテがイスラエルとその周辺世界でどのように異なっているか理解されていたのかを議論した。

研究成果の概要（英文）：

Through the archaeological excavations at Tel 'En Gev, Israel, religious artifacts were unearthed and the influence of Neo-Hittite culture on establishment of ancient Israel and its neighboring kingdoms was pointed out. Studies on religious artifacts such as a stamp seal from 'En Gev and the Judean Pillar Figurines were also carried out; through them it was revealed that polytheism during the Canaanite period was not simply continued through the Israelite period. Furthermore, in August 2011, an international conference was organized to discuss different attitudes toward Astarte, one of the major goddesses in the ancient west Asia, between ancient Israel and its neighboring cultures.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：考古学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学、イスラエル、一神教、アスタルテ、土偶

1. 研究開始当初の背景

2. 研究の目的

本研究の目的は、古代イスラエルにおける一神教の成立過程を考古学的にとらえ、一神

教文化と多神教文化のダイナミズムを理解することにある。これまでこの地における一神教の成立過程に関しては、聖書の文献学的研究、宗教学などからさかんに議論されてき

たが、これらの研究は聖書自体の宗教的意図や各研究者の思想的前提によって影響される面が大きく、限界が感じられてきた。そこで本研究は、聖書から独立した資料の得られる考古学調査から、新たにこの問題解明の視点を得ようとするものである。

一神教的世界観と多神教的世界観の相克は、非常に現代的な課題であるが、古代イスラエル王国で一神教が確立した時点においてもすでに多神教的世界観との関わり無しに存在することはできなかった。そのような環境の中で、なぜ彼らが一神教的世界観を選び、その結果、どのように異なる社会が生まれてきたのかを知ることは大きな意味がある。

一般に、考古学は精神世界を捉えることを得手としないとされるが、当該地域においては豊富な宗教的考古遺物が知られており、その図像学的分析や碑文資料から、かなりの情報を得ることができる。本研究は、聖書の文献学的研究とは別の視点から、当時の精神世界の再構成に取り組むことを目的としている。

3. 研究の方法

上記の研究目的に取り組むため、以下の3つの方面から調査を行う。すなわち、イスラエルに隣接する地域にありながら多神教的な文化を維持したことが知られるゲシュル地方の代表的都市エン・ゲヴ遺跡の調査を行い、イスラエルとその周辺意識の国家形成のあり方、及び宗教意識の違いを明らかにすること。日本隊を始めとする、イスラエル各地の調査で得られた宗教遺物の分析を通して、宗教的象徴に反映される多神教、一神教的概念の違いを理解すること、以上の研究成果を報告書やシンポジウムを通して社会に公開することである。

4. 研究成果

イスラエル国エン・ゲヴ遺跡の発掘調査は、本研究代表者及び研究分担者を中心に平成21-23年の夏季休暇中に行ったが、科研費の受給額のみで発掘調査を行うには不十分だったので、別の研究資金(慶應義塾大学次世代研究プロジェクト推進プログラム)によって発掘調査を行い、科研費はそこで出土した遺物の整理に充当した。

エン・ゲヴ遺跡の発掘調査では、古代イスラエル王国が成立した鉄器時代期の都市遺構を3時期に分けて検出することに成功し、これまで明確でなかった同地における歴史的枠組みの再構成することが可能となった。また、複雑な宗教図像が描かれた印章をはじめとする宗教遺物が出土し、この時期イスラエルに隣接した国家であるゲシュル王国の宗教文

化を理解し、イスラエルとの違いを検討する貴重な資料を得ることができた。

エン・ゲヴ遺跡及びその周辺遺跡(テル・ハダル、ベツサイダ、テル・キンロート、テル・ドヴェル)の調査成果を検討したところ、同遺跡の立地するガリラヤ湖東岸地域では古代イスラエル王国成立に先立つ時代からすでに強力な都市が建設されていたこと、その文化には北方、おそらく新ヒッタイト文化の影響があったことが認められた。このことは、古代イスラエル王国及びその周辺諸国の文化がどのように形成されたかを理解する上で重要であり、平成23年度に開催された国際シンポジウム(*International Symposium, The Land of Geshur: Archaeological Reconstruction*, March 17-18, Keio University, Organized by David T. Sugimoto、以下参照)にて発表され、英文にて出版される予定となっている。

1. イスラエル出土の宗教遺物の分析に関しては、まず初年度に、研究代表者の杉本がこれまでの研究成果に基づいた総論的な論考「古代イスラエルにおける一神教の成立過程に関する考古学的研究」(以下5.の論文11)をまとめ、その後、その枠組みを検証する形でさまざまな宗教遺物の分析を行う各論が発表された(以下、参照)。

2. 平成21年度には、日本隊の調査したテル・レヘシュ遺跡など、いくつかの遺跡から出土例が知られる鉄器時代の土器に「生命の木」の図像が描かれた遺物の分析を行った(論文12、14)。「生命の木」の図像は青銅器時代(カナン時代)の土器に頻繁に見られる図像で、一般に豊穡の女神の象徴と理解されている。これが、聖書によると一神教になったはずの鉄器時代(イスラエル時代)の遺物に見られることは不思議な現象である。杉本は当該時期の他の図像資料や碑文資料と比較し、カナン時代とイスラエル時代では同じ「生命の木」の図像が異なる意味に読替えられており、イスラエル時代にはヤハウエの祝福の象徴の意味を持つようになったことを論じた。これは、イスラエルでヤハウエ神教が成立した時に、それまでの多神教的要素をどう組み入れたのか、またその時期がいつ頃であったのかを知る上で重要な知見である。

3. この議論は、平成23年度に行ったエン・ゲヴ遺跡出土の宗教図像の描かれた印章の分析によっても支持された(論文13)。この資料は、前10世紀の遺構から出土した、これまで知られる最大の印章である。そこには、生命の木、複数のサソリや四足獣が組み合わされて描かれているが、それぞれの図像学的

要素が、やはり時代によって異なった意味で受け取られていたことを示した。

4.平成22年度には、前8-7世紀のユダ地方から特徴的に出土する「ユダ式柱状土偶」の分析を行った(学会発表11、12)。この土偶はしばしば在地の地母神アシェラと同定され、イスラエル王国時代になってからも、ヤハウエの配偶女神として多神教的世界観が継続したことの証拠として議論されることが多い。しかし、本研究では、この土偶は前1200-800年の間ほとんど出土例がなく、これらは前8世紀に新たに導入された信仰を表していること、地母神よりもアッシリアの影響によってもたらされた「天の女王」崇拜と関係する可能性が高いことを示した。

以上3種の遺物は、鉄器時代期(イスラエル王国時代)に入ってからカナンが多神教的世界観が継続していたことの証拠、イスラエルにおける一神教の成立がかなり遅かったことを示す証拠として用いられることが多い。しかし、これらの遺物の詳細な分析から、鉄器時代の初め(1期)には宗教遺物の図像に明確な画期が存在すること、イスラエルと周辺諸国には違いが認められることなどが確認され、さらにその後前8世紀頃に別の展開があったことが示された。このことは、イスラエル王国時代に、青銅器(カナン)時代の多神教がそのまま継続していたわけでないことを示す証拠として非常に異議深い。

1.エン・ゲヴ遺跡発掘調査およびその遺物分析の成果は、研究代表者及び研究分担者が様々な論文・報告書や学会で発表を行った(論文1-10、学会発表1-6)ほか、慶應義塾大学で開催された国際シンポジウム *International Symposium: the Land of Geshur, Archaeological Reconstruction* (organized by David T. Sugimoto, March, 17-18, 2012, Keio University)において公表された(学会発表4、5)。この国際シンポジウムには、「ゲシュル」地方を形成すると考えられるエン・ゲヴ遺跡周辺の遺跡で発掘調査を行っている4つの調査隊の代表者たちがイスラエル、米国、スイスなどから集まり、それぞれの成果をもとに鉄器時代の「ゲシュル」地方に独特な物質文化の特徴を吟味し、イスラエルとの違いを理解することを試みた。

2.イスラエルとその周辺世界から出土した宗教遺物の分析に関しては、まず平成21年10月4日、11日に開催された一般向けの公開講演会『女神の変容』(主催:杉本智俊、慶應義塾大学)において、その予備的な成果が公表された。この講演会は、ヤハウエー神教と対立する多神教世界の代表的女神アスタルテを考古学的に理解することが目的で

あったが、研究分担者の月本、佐藤はそれぞれカナン・メソポタミアとフェニキアの碑文・図像資料を用いて、イスラエル王国の周辺世界でこの女神がどのような展開をしたかを議論した(学会発表8、9)。イスラエル周辺の多神教世界の様相を理解することは、それに対するイスラエルの反応、独自性を理解する上で重要である。

3.同じテーマはさらに深化され、この女神アスタルテの時代と地域による性格の変化を捉える国際カンファレンス *International Conference on Ishtar/Astarte/Aphrodite: Transformation of a Goddess*, August 25-26, 2011, Keio University を慶應義塾大学に於いて主催した(学会発表7)。これは本来平成23年3月に予定されていたものであるが、地震の影響で持越しになったものである。このカンファレンスでは、前3千年紀からヘレニズム時代まで、この女神が時代と地域によってどのように異なって捉えられてきたのかを国内外11名の専門家が議論した。より広い枠組みでこの女神の発展を捉えること、そのコンテキストの中でイスラエルの多神教を理解することが目的であった。本研究代表者と研究分担者2名もここで発表を行い(学会発表13-15)、本研究課題を歴史的・地理的広がりの中に位置づけることに成功した。このカンファレンスの成果は、英文にて出版される予定であり、現在準備中である。

5.主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計14件)

エン・ゲヴ遺跡の調査及び出土遺物の分析に関わるもの

1.杉本智俊・岡田真弓「ゲシュルとアラムの拠点都市 2011年エン・ゲヴ遺跡(イスラエル)発掘調査報告」『考古学が語る古代オリエント』日本アジア考古学会(2012年)94-100頁、査読無

2.杉本智俊・間舎裕生「2011年度エン・ゲヴ遺跡(イスラエル)における発掘調査」『史学』81:1-2(2012年)、191-224頁、査読有

3.牧野久実「エン・ゲヴ遺跡出土のヘレニズム土器 2009年度再発掘H地区資料を中心に」『オリエント』54-1(2011年)、158-181頁、査読有

4.牧野久実「パレスティナにおけるヘレニズム時代の編年に関する一考察 口縁部が内湾する小鉢とフィッシュ・プレートをもとに」『西アジア考古学』12巻(2011年)、33-40頁、査読有

5.杉本智俊・間舎裕生「イスラエル、アラム、ゲシュル王国の始まり 2010年度エン・ゲヴ遺跡(イスラエル)発掘調査報告」『考古

学が語る古代オリエント』日本西アジア考古学会 (2011 年)、105-109 頁、査読無

6. 杉本智俊・間舎裕生「2010 年度エン・ゲヴ遺跡(イスラエル)における発掘調査」『史学』80-1 巻(2011 年)、71-89 頁、査読有

7. David T. Sugimoto (= 杉本智俊), "Tel 'En Gev: Preliminary Report," *Hadashot Arkheologiyot – Excavations and Surveys in Israel* 122(電子版、http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.asp?id=1382&mag_id=117), (2010), 査読有

8. 杉本智俊「古代イスラエルとその近隣諸国—2009 年度エン・ゲヴ遺跡発掘調査報告—」『考古学が語る古代オリエント』(2010 年) 101-106 頁、査読無

9. 杉本智俊・間舎裕生「二〇〇九年度エン・ゲヴ遺跡(イスラエル)における発掘調査」『史学』79-1, 2 号(2010 年)、87-114 頁、査読有

10. 杉本智俊「新ヒットイト都市とイスラエル都市」『聖書の世界』18 巻(2009 年)、3-13 頁、査読無

宗教遺物の分析に関わるもの

11. David T. Sugimoto, "Tree of Life' Decoration on Iron Age Pottery from the Southern Levant," *Orient* 47 (2012), 191-224, 査読無

12. 杉本智俊「エン・ゲヴ遺跡出土の宗教的モチーフが描かれた印章」『オリエント』54-1 (2012 年)、43-58 頁、査読有

13. 杉本智俊「イスラエル鉄器時代出土土器に見られる『生命の木』の意義」『オリエント』52-2 号(2010 年)、23-46 頁、査読有

14. 杉本智俊「古代イスラエルにおける一神教の成立過程に関する考古学的研究」市川裕、松村一男、渡辺和子編『宗教史とは何か』(上巻)所収、リトン(2009 年)、229 - 266 頁、査読無

[学会発表](計 16 件)

エン・ゲヴ遺跡の調査及び出土遺物分析に関するもの

学会発表

1. 岡田真弓、杉本智俊「ゲシュルとアラムの拠点都市 2011 年エン・ゲヴ遺跡(イスラエル)発掘調査報告」第 19 回西アジア発掘調査報告会、2012 年 3 月 25 日、古代オリエント博物館

2. David T. Sugimoto, "The Land of Geshur and the Neo-Hittite Culture: A Preliminary Proposal," International Symposium, *The Land of Geshur: Archaeological Reconstruction*, March 18, Keio University

3. Kumi Makino, "En Gev after the Iron Age," International Symposium, *The Land*

of Geshur: Archaeological Reconstruction, March 17, Keio University

4. David T. Sugimoto, "Cities of Geshur and Aram: Excavations at Tel 'En Gev, Israel, 2009-2011," *The 2011 American Schools of Oriental Research Annual Meeting*, November 18, 2011, Westin St. Francis Hotel, San Francisco, CA

5. 杉本智俊「古代イスラエルとその近隣諸国 2009 年度エン・ゲヴ遺跡発掘調査報告」2010 年 3 月 27 日、古代オリエント博物館、日本西アジア考古学会

6. David T. Sugimoto, "The Excavations at Tel 'En Gev, Israel: Summary of the 1990-2004 Seasons and Summer 2009," *American Schools of Oriental Research, Annual Meeting*, New Orleans, LA, November 20, 2009

宗教遺物の分析に関わるもの
学会主催

7. David T. Sugimoto, *International Conference on Ishtar/Astarte/Aphrodite: Transformation of a Goddess*, August 25-26, 2011, Keio University

学会発表

8. Kumi Makino, "An Orientation of the Settlement Planning at the Hellenistic Ein Gev on the Eastern Shore of the Lake Galilee, Israel," *XXth Congress of the International Association for the History of Religion*, Trinity College, Toronto, Canada, August 19, 2010

9. 牧野久実「ヘレニズム時代のパレスチナにおける町の軸に関する一考察」日本西アジア考古学会大会、2010 年 6 月 27 日

10. Ikuko Sato, "Goddess of the Punic World," *International Conference on Ishtar/Astarte/Aphrodite: Transformation of a Goddess*, August 25-26, 2011, Keio University

11. Akio Tsukimoto, "In the Shadow of Thy Wing: A Study on Ishtar's Wings," *International Conference on Ishtar/Astarte/Aphrodite: Transformation of a Goddess*, August 25-26, 2011, Keio University

12. David T. Sugimoto, "The Judean Pillar Figurines and the 'Queen of Heaven'," *International Conference on Ishtar/Astarte/Aphrodite: Transformation of a Goddess*, August 25-26, 2011, Keio University

13. 杉本智俊「ユダ式柱状土偶とアスタルテ」日本オリエント学会第 52 回大会(国土館大学)、2010 年 11 月 7 日

14. 杉本智俊「イスラエル鉄器時代出土土器に見られる『生命の木』の意義」日本オリエント学会大会（同志社大学）2009年10月11日

15. 佐藤育子「北アフリカにおけるタニト女神信仰の広がりの変容」於公開講演会『女神の変容』（慶應義塾大学）2009年10月11日（土）

16. 月本昭男「カナンにおける女神の系譜：アシタルテ、アシェラ、アナト」於公開講演会『女神の変容』（慶應義塾大学）2009年10月4日（土）

〔図書〕（計3件）

エン・ゲヴ遺跡の調査及び出土遺物の分析に関わるもの

1. 杉本智俊編『2010年度イスラエル国エン・ゲヴ遺跡調査・活動報告』慶應義塾大学文学部杉本研究室、2011年、全74頁

2. 杉本智俊編『2009年度イスラエル国エン・ゲヴ遺跡調査・活動報告』慶應義塾大学文学部杉本研究室、2010年、全68頁

宗教遺物の分析に関わるもの

3. David T. Sugimoto (ed.), *Ishtar/Astarte/Aphrodite: Transformation of a Goddess*, Keio University, 2011, 211 pages

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

発掘調査団

HP <http://web.mita.keio.ac.jp/~db084020/einge/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉本 智俊 (SUGIMOTO TOMOTOSHI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：80338243

(2) 研究分担者

月本 昭男 (TSUKIMOTO AKIO)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：10147928

越後屋 朗 (ECHIGOYA AKIRA)

同志社大学・神学部・教授

研究者番号：80247791

牧野 久実 (MAKINO KUMI)

鎌倉女子大学・児童学部・准教授

研究者番号：90212208

佐藤 育子 (SATO IKUKO)

日本女子大学・文学部・講師

研究者番号：80459940

(3) 連携研究

佐藤 孝雄 (SATO TAKAO)

慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号：20269640